

タイトル	植林 CDM プロジェクトに関心を抱いているのは誰？ Who is interested in CDM AR projects?
主催	ドイツ排出量取引協会 (German Emissions Trading Association; BVEK)
日時	6月16日(水) 13:00-15:00
主要討論者	Igino Emmer, Face Foundation Bart Muys, Leuven Catholic University Michael Dutschke, Hamburg Institute of International Economics Bernhard Schlamadinger, Joanneum Research Juan Garcia, Leuven Catholic University Timm Tennigkeit, Unique Forestry Consultants
傍聴者	60人弱(各国林野庁関係の職員や学識経験者の姿も見られた)
目的	植林・再植林(AR)の CDM プロジェクトについてのメリットや課題の紹介。また地域に根ざした CDM-AR プロジェクトである「ENCOFOR」のフレームワークの紹介。
発表の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「Co-benefits of CDM AR Projects」のプレゼンでは、「ENCOFOR」が AR プロジェクトの中で最も環境への取り組みと住民参加(Local Community)のバランスが取れた優れたプロジェクトであることを強調。また環境だけでなく、social-benefits として、雇用創出、貧困改善、教育、キャパビル等にも好影響を与えている。環境面では、土壌保全、生物多様性保護、砂漠化防止等に役立っている。 ・「Making ICERs compatible with national emissions trading system」と題したプレゼンでは、COP9 での CDM forestry に関する決定や EU Linking Directive についての言及があった。また LULUCF が1%までに制限されていることや、どのようにして ICERs を CERs にコンバートするのか、といった問題点を指摘した。 ・「Non-CO2 GHGs, relevance and accounting」では、N2O と CH4 を CO2 と比較しながら、排出削減のデータ算出方法等の技術的な内容の発表がなされた。 ・「Virtues of small-scale CDM AR with an example from Uganda」では、ドイツの「Unique」が運営するウガンダでの SSC の事例が紹介された。(Unique の活動については、www.unique-forst.de にて詳細が紹介されている。)
所感	質疑応答はテクニカルなデータの問い合わせ等に集中していた。
資料	PPT 資料: (http://unfccc.int/sessions/sb20/se_table.html) ENCOFOR: www.joanneum.at/encofor Unique: www.unique-forst.de